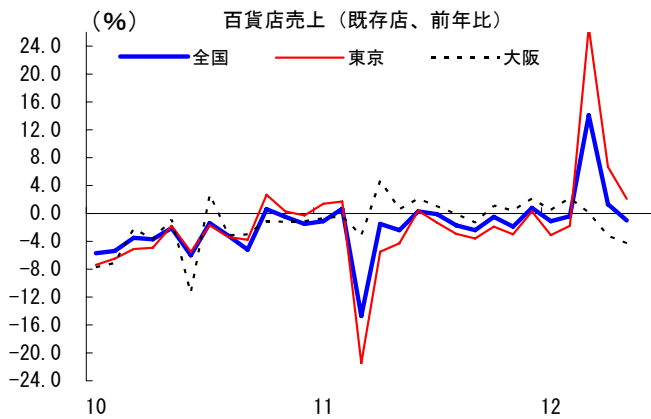


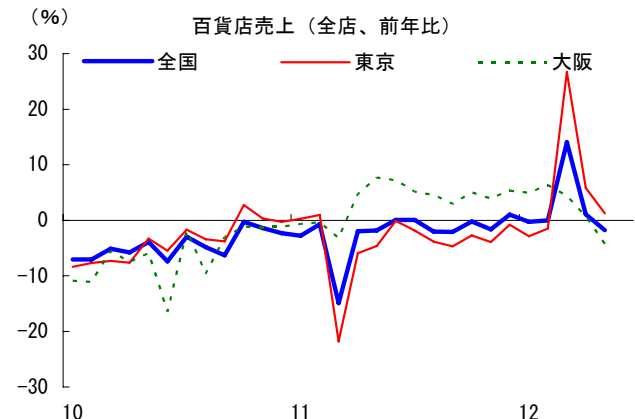
指標名:百貨店売上高(2012年5月)

発表日2012年6月18日(月)

～天候・暦要因などを背景に、3ヶ月ぶりの前年比マイナス～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 星野 卓也
TEL : 03-5221-4526

(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」

○5月の百貨店売上高は前年比▲1.0%

5月の百貨店売上高(全国)は前年比▲1.0%(既存店ベース)と、3ヶ月ぶりに前年比マイナスに転じた。ただ、①昨年より2日少ない祝祭日数、②ゴールデンウィークの天候不順、といった要因により押し下げられている面が大きい。また、高額消費は底堅く推移するなど好材料もみられ、売上が悪化基調にあることを示す内容ではないだろう。

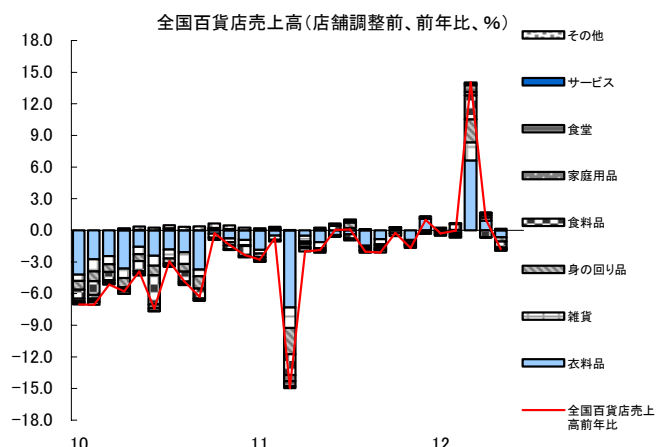
品目別にみると、先述した天候要因などを背景に、衣料品(前年比▲1.1%)、身のまわり品(同▲1.7%)、食料品(同▲1.5%)などが前年を下回った。クールビズ商戦のスタートを背景に好調であった紳士服・洋品も、5月は前年比▲2.2%とマイナスに転じている。他方で、美術・宝飾・貴金属は前年比+3.4%と7ヶ月連続で前年を上回った。高額消費は株価動向の影響を受け易いが、4、5月は株価が低迷する中にありながらも、底堅く推移した。

その他百貨店協会からは、①大震災以降定着しつつある「絆消費」を背景に、こどもの日や母の日などのプライベートギフトが活況であったこと、②新店効果などにより、東京地区が前年比+2.1%と好調が続いたこと、③中国本土や台湾からの来店が増加し、訪日外国人客数が回復傾向にあることなどが報告されている。

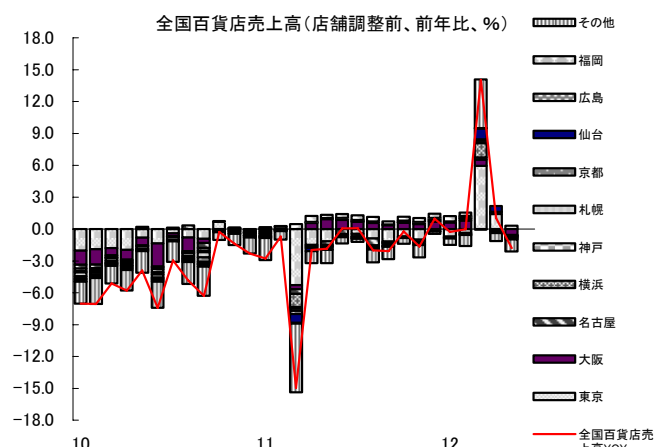
○底堅さが目立つ個人消費だが、懸念材料も多い

このところの個人消費は、エコカー補助金による自動車販売の増加や、高額消費の堅調さなどを背景に、底堅さが目立っている。ただし、今後もこの好調が続くかどうかに関しては疑問が残るところだ。特に、低調に推移している株価は目下の懸念材料である。足元の株価低迷による目立った悪影響は今のところ見られないが、過去の日経平均と高額消費をみてもその連動性は高い。また、5月の景気ウォッチャー調査では、株安による悪影響を指摘するコメントが複数みられている。その他、電気料金の上昇や夏のボーナスの減少

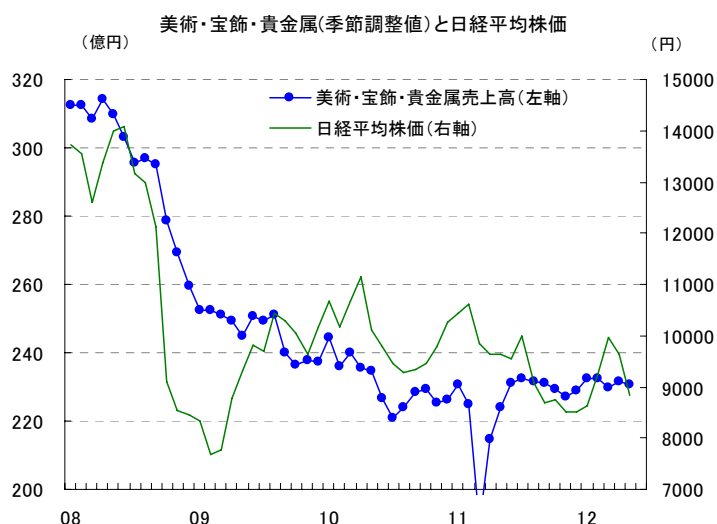
が見込まれることも、今後の個人消費には下押し要因となる可能性がある。加えて、雇用の回復が緩慢なものに留まっていることから、個人消費の好調の持続性については慎重にみておくべきであろう。



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」、日本経済新聞社
※美術・宝飾・貴金属の季節調整は第一生命経済研究所